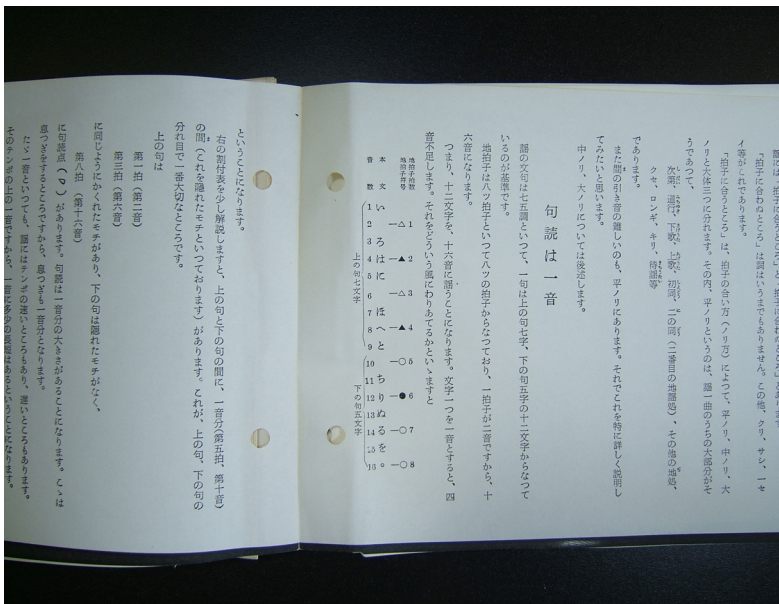
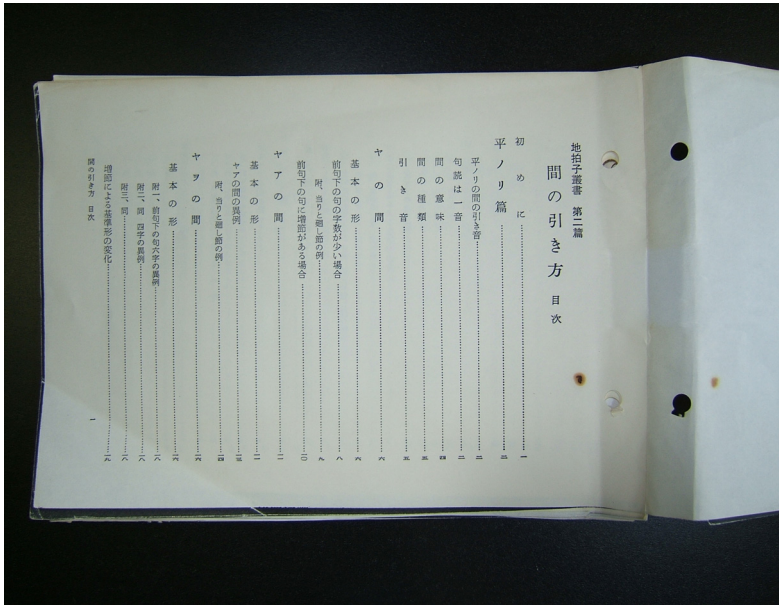


佐藤芳彦 『地拍子叢書第二篇 校訂 間の引き方・謡い方』

地拍子叢書の内、『地拍子の打ち方』(113頁)とならんで、内容が薄い。間というのは、八拍上の位置にもとづいた概念だが、その間を満たすためには前の句の末の文字をどの程度の長さ引かなければならぬいかについて延々と場合分けして述べるだけである。独自の情報があるとすれば、写真下、「句読は一音」ということの説明であろうか。息つぎの大きさについて具体的に述べた言説は、謡の技術書の中にはほとんどなく、半拍分の長さを意味する「一音」という表現の使用とともに、新鮮ではあった。



標題 内題…

標題紙…

奥附…地拍子叢書第二篇 校訂 間の

引き方・謡い方

その他…地拍子叢書 第二篇 間の引き

方(目次)

著者 奥附…佐藤芳彦

その他の場所…

出版 版次…第三版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和41(1966)

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…

寸法…

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…複写

備考 宝生九郎校閲。初版は昭和三四(一九五

九)年(奥附)。